

フロストとボンディ著

絵カード交換式コミュニケーション・システム

トレーニング・マニュアル第2版 (NPO それいゆ, 2006)

Lori Frost & Andy Bondy (2002). The Picture Exchange Communication System : Training Manual Second Edition, Pyramid Educational Products, Inc., Newark, DE.

この本は、自閉症スペクトラムの子ども（大人も）へのコミュニケーション支援の方法としての拡大・代替コミュニケーション(AAC)の1つである絵カード交換式コミュニケーション・システム(PECS)のトレーニング・マニュアルです。

今回は、私自身が監訳作業にあたった本です。初版を購入された方のために、この場を使って、正誤表を提供します。自分が訳したものの間違いはなかなかわかりにくいものです。ここにあげたもの以外に重大な間違いを発見された方は是非お知らせください。これはマニュアルなので、誤訳によっては子どもたちに被害が及びます。ですから責任を痛感しています。ただし、煩瑣になるので、読めばわかるような単純なミスプリは省略します。

頁	行	誤 ('05.12.28 初版第1刷)	訂正
xi, 77 104, 144 167, 200 213, 23		リラックスした	気楽な
xii		スケジュールの表	p.365 (訂正は後述) に合わせる
12	7-	変化は、子どもに ...	変化は、子どもにはわからないほど小さなものですが、教師には十分にわかるほどのものにすることが重要です。
	13	スキルに関して 他者>に関する	スキルに関係する<他者>の問題
	18	一日の	1日のうち
13	下から 9	機会学習	機会利用型学習
31	8	主目的ですが	主目的なので
46	下から 16	ルーティンに	日常的に
51	3	1日を通した、また毎日	1日を通して毎日
52	12-13	やりとりを行ない	やりとりするようになり
	21	やりとりを渉する	やりとりをする
53	2-3	すぐに手に入るのに、わざわざ自分のほしいものや必要なものを	すぐ手に入るのに、自分のほしいものや必要なものをわざわざ

	下から 15	期待できる	期待する
56	3	子どもを有効な好子に接触させる	子どもが有効な好子を手に入れるという
	16	好みのアセスメント	好子のアセスメント
	下から 12	階層	序列
	下から 8	ランクづけ	順位づけ
57	3	階層表	序列表
60	下から 2	好子の階層を作ったら	好子に序列をつけたら
62	3	この後もたくさん出てくるマジックテープ	マジックテープは面ファスナーの商品名なのですべてRをつけます
67	下から 5	差し出し	手渡し
	下から 3	では本当の	ではまだ本当の
	最終行	「先生（これ以後も出てきますが）」	（ <u>原則</u> として）「トレーナー」に統一
68	最終行	教え方は後にまわします	教え方については、もっと後で説明します
69	17	行ってはいけません	だけですませてはいけません
75	5	それから	その後
	16	次の好子	他の好子
	24	見せる	使う
77	5	理想的には	（削除）
80		スケジュールの表	p.365（訂正は後述）に合わせる
82	下から 10	代替・拡大	拡大・代替
83	5	あれがほしい	それがほしい
86	第 5 試行	FF	FP
89	フェイズ	文章カード	文カード
96	20-22	のところに行き、トレーナーの手の中に絵カードを入れることになります	の方に手を伸ばし、トレーナーの手の中に絵カードを入れるはずで
	下から 10	大人のところに持って行く	トレーナーの方に手を伸ばす
	下から 9-8	のところに行くとき	の方に手を伸ばすとき
	下から 7	上体を少し前に傾けなければ	もう少し手を伸ばさなければ
	下から 3	体を前に伸ばさなければ	手を伸ばさなければ
	下から 2	トレーナーのところに行くには	トレーナーまで手を伸ばすには
97	下から 9	対人的なやりとりの外部から	パートナーとのやりとりの外から
99	下から 3	好物	好子
101	下から 11-	子どもにコミュニケーション・パートナーとコミュニケ	コミュニケーション・パートナーとコミュニケーションを取ること

		ーションを取ることに気づかせる	を子どもに気づかせている
103	15	前でも，	ときにも，
	16	見るのを	見てくれるのを
106	左コラム	3種の	右のような
110	15	手を差し出すこと	手を伸ばすこと
112		スケジュールの表	p.365（訂正は後述）に合わせる
116	5と6	ボード	ブック
	19-21	コントロールするための方法として，コミュニケーション・ブックやその中の絵カードを取り去ることは，	コミュニケーション・ブックやその中の絵カードを取り去って，子どもをコントロールすることは，
117	上の表	聞き手までの距離始め3，終り8	始め0，終り3
	下の表	聞き手までの距離始め1	3
		自力試行数4	3
		ブックまでの距離(記入なし)	始め0，終り2
	8箇所	目標距離までの	目標距離での
118	表	ボードへの移動，ボードとの距離	ブックへの移動，ブックとの距離
123	下から10	具体的な	物的な
	下から4	場面で般化	場面に般化
124		くつしたとチップスの絵が抜けている	くつしたは p.130 チップスは p.123
127	15-17	それは明るい声の正のフィードバックではなく負のフィードバックなのだと，子どもが	それを明るい声の正のフィードバックではなく，負のフィードバックとして子どもが
128	7	ブックの中の	ブックの表紙の
134	1	エラーのない学習法	エラーレス学習
	16-17	カードに対して欲しいアイテムの	カードではなく望みの
138	最終行	その表紙に対応する絵カードを2枚	対応する絵カードを2枚表紙に
139	下から3	手を伸ばした	手を伸ばした（リーチした）
	最終行	「リーチのティーチ」	「リーチをティーチ（せよ）」
	下から3	「続けなさい」など	「続けて」「どうぞ」など
142	6	これらはすべて選択可能です	これが選択肢のすべてです
144	17	弁別トレーニングを始めて，	弁別トレーニングに入って
145	14	コミュニケーション交換	コミュニケーションのやりとり

146	14	アイテムが依然	アイテムに依然
	表の 6 行	いろいろな標的絵カード	その絵カード
	表の 8 行	好みではない	(要求に応じて) 好みではない
	表の 9 行	反応を引き出す	反応が出る
148	表の 9 行	「手伝ってほしい」要求	「手伝ってください」
		「 ... を手伝ってほしい」	「 ... を手伝ってください」
159 -	何箇所も	文章カード	文カード
162	7	伝えようとします	伝えるようになっています
164	24 -	読むときに指差すことを習得したら、次のステップは、... 与えることです。	読むときに、子どもが絵カードを指差すようになったら、次は、... 与えます。
165	2	パートナーに	パートナーに向かって
173	7	渡します。	渡して物的に強化します。
174	表	6 番目の を	黒く塗りつぶす
176	下から 11 -	こうしたスキルがない ... 重要度が低いのです。	機能的コミュニケーション・スキルがない子どもにとっては、そのスキルを獲得することの方が、どんなコミュニケーション様式を使うかということよりも重要です。
178	絵	ください 絵カードは	右列の絵カードと入れ替える
186	注意の 5	手本	例
190	6 -	理想的には、	(削除)
	8	嫌いなアイテムを示すものにします	好まないアイテムを示すものにするとよい
199	9	ブロック	積み木
210	コラムの中の 4 行目	その行動を強化できるということが知られています。	そしてその行動は強化されるのです。
211	5	触ることです	触るかすることです
213	12	中に PECS 語彙を組み入れて	中で PECS の語彙を増やして
214	1	求められているか	期待しているか
215	表の 9 行	「手伝ってほしい」要求	「手伝ってください」
		「 ... を手伝ってほしい」	「 ... を手伝ってください」
216	2 の先頭行	終わりで	初めで
218	説明 3 行目	その後は 3 秒遅れて	3 秒と遅れて
224	15	のアイコン	(削除)
226	イラスト	吹き出しと手のイラスト	右端<みえる>カードを差す位置に
227	下から 5	作り出して	設定して
230	1	次のような活動を順に	次のような順で

232	11,12,16	単位	単元
235	表の中	手伝ってほしい	手伝ってください
236	20	実用的	機能的
237	表中 4 か所	アイテム	絵カード
244	表の中	手伝ってほしい	手伝ってください
245	イラスト	たすけて	てつだって
	11	シンボル	アイコン
	下から 4,3	シンボル	アイコン
246-7	12 か所	たすけて	てつだって
246	4 か所	シンボル	アイコン
249	下から 7,5	エラーなし	エラーレス
253	下から 11	行動 に対応して	行動が生じて から
255	左コラム	“ 好子第一 ”	“ まず好子 ”
256	イラスト	ください カードと 休け い 4 枚	両者を入れ替える
259	10-11	前にこの見慣れないアイテム	までにこの見慣れないカード
260	左コラム	待ち カード	まって カード
261	9	トークン	小物
	13	応じられる	応じる
266	下から 2,1	いるということになります。	いるかもしれないと考えましょう
269	12	プロンプトはやめていく	この身体プロンプトはやめていく
	13	さらに別種	言葉による 2 つ目
	15	ようになるまで ,(連鎖の	ように ,(行動連鎖の
	16	プロンプトをやめて	プロンプトを徐々にやめて
281	下から 14-9	ルーチンが完全な日もあるの です。ルーチンの中で要求す ることを教わっている子ども は、アイテムがあってもなく ても要求します。子どもは基 本的には、ある時点でアイテ ムを要求するという、ルーチ ンの新しい流れを習得してい ます。子どもはルーチンが完 全か不完全かの弁別は習得し ていません。	ルーチンが完全な日もあるよう にします。ルーチンの中で要求す ることを教わった子どもが、アイテ ムがあってもなくても要求するの を見たことがあります。そのよう な子どもは実は、途中でアイテム を要求するというルーチンの新し い流れを習得してしまったので す。そのような子どもはルーチン が完全か不完全かの弁別を習得し てはいないのです。
	下から 7	1 日の	いつも
	下から 5	設けるようにします。	設けることもできます。
	最終行	を用意することが	を食べる用意をする
282	下から 13	先生は	先生には

		選ぶように	選ぶことを
283	6	強化的でなければ	強化的なものになっていなければ
	12	ルーチンが	ルーチン自体が
	14	後のことのために	ら何があるかを教えて
	14	強化的なことを子どもに教え	強化的になるようにし
	17-18	ブックを持って行くか、活動 ボードを持って行くかを	ブックや活動ボードを使えるよう に
	19	リストに	(削除)
	20-21	アイテムは、その名称を教え ることができるかもしれません。	アイテムは、教えるべき語彙の候 補になります。
	下から 4,3	妨害すると、様々なアイテム を子どもは要求します。	妨害して、様々なアイテムを子ど もが要求するようにします。
285-7	表題		右肩に?をつける
286-7	4カ所	11/9,10,17と12/10の反 応欄	「+」でも「-」でもなく空欄にす る
291-	この章全部	先生	トレーナー
291	下から 5	例えば、レッスンで習得した ことが分かるように、行動が 変わることです	例えば、習得したということが分 かるような行動の変化です
293	17と32	特別なカード	特別な契約カード
	下から 2	換えるまでは	換えるようになるまでは
295	下から 5	変わっても	変わったら
298	10	使います。子どもは	使ったときのように、子どもは
	左コラム	(2001)	(2002)
301	下から 10	PECSでの	PECSによる
312	4	それぞれのオペラントの	(削除)
	6	(p.326	(本書 p.326
321	13-15	聞き手 がその環境内のど こにしようと探し出すことを 子どもに教えるために、聞き 手は徐々に子どもから離れて いくようにします。	聞き手は徐々に子どもから離れて いくようにします。聞き手 がそ の環境内のどこにしようと探し出 すことを子どもに教えるためで す。
329	Bondy & Frost(2001)	の次に追加する	Bodny,A. & Sulzer-Azaroff,B. (2002). The Pyramid Approach to Education in Autism. Newark; DE: Pyramid Educational Products, Inc.
338	5カ所	助けて	手伝って

	待つ-b 欄	操作性や双方向性のあるおもちゃ	操作型/対話型のおもちゃ
365	10	手伝ってほしい	手伝ってください
371		アイコン	絵カード
372	12カ所	目標距離までの	目標距離での
374		アイコン	絵カード
378		アイコン	絵カード
385	2カ所	両方の	2つの
386	2カ所	両方の	2つの
	下から8	分かっている	できる
387	1カ所	両方の	2つの
388		○○○キャンディ	(ムムム)キャンディ
	1カ所	両方の	2つの
394		時間：_____v_____	時間：_____
401	6	educational	social or educational
	7	material	tangible
	12	educational	social or educational
	14	material	tangible